



おじゃまします

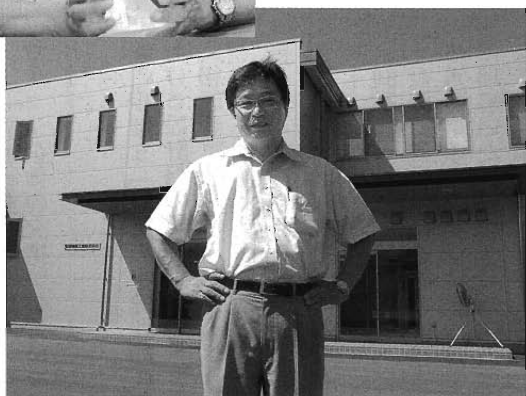
さかき新企業人インタビュー⑨

鈴木雅視さんプロフィール

昭和樹脂工業株式会社 代表取締役社長

昭和37年、千葉県生まれ。大学まで生まれ故郷の千葉で過ごし、大学卒業後は商社に就職。22年前、創業者で父の太郎氏の後を継ぐべく坂城町の現会社へ。商社時代とは畑違いの仕事とはいえ、「門前の小僧」で業務全般に携わる。創業50周年を迎えた今年は新しい社屋をつくり、「第2の創業」との思いから新たな事業展開にも着手。奥様と高校3年の長男、中1と小1のお嬢さんの5人暮らし。休日には地元ソフトボールチームで汗を流す。

創業50年、半世紀の社歴を持つ 医療系プラスチック容器の リーディング カンパニー



創業50周年を迎え、この春には新社屋を完成させた昭和樹脂工業。県内では唯一の医療系プラスチック容器製造会社である同社の鈴木雅視社長に伺いました。

御社の歴史をお聞かせください。

「会社の創業者である父。太郎はもともとアルコール発酵技師で、昭和28年に坂城へ来て技師として働いていました。ちょうどその頃、お酒を入れるプラスチック容器が回り始め、父はこの坂城でプラスチック製ウイスキーコップの製造を始めました。昭和35年のことです。2年後の37年に株式改組。コップのほか塩容器の出し口や灯油ポンプ、スプレーなど、各種プラスチック製品を製造して事業を拡張しました。

当社の主力である医療関連製品は、昭和40年に森下製薬さんと共同開発した輸液用吊り具（ホルダー）から始まりました。当社はこの製品の全国シェア約8割を占め、当社の基盤を作ったといっても過

言ではありません。その後も吸引器用容器や理化学検査容器、点滴などの注射剤容器等の医療用具を手がけ、現在生産している製品の約8割は医療理化学系（内約5割が吸引機関連）で、その他は健康食品や化粧品等の容器やキャップなどです」

社長ご自身の経歴は？

「私は生まれも育ちも千葉県。大学を出て4年ほど材料商社に勤め、こちらに来たのは昭和63年です。父は事業所のある坂城と千葉の実家を行ったり来たりで、小さい頃は父の仕事を見ることもなく、家業を継ぐ意識はあまりありませんでした。意識し始めたのは大学に入ってからです」

「御社では「クリーンルーム（*）」という設備がおりだとお聞きしましたが。

「当社は中堅の成形メーカーとしてはめずらしく、早い時期から『クリーンルーム』を整備して衛生・品質管理を徹底してきました。当社規模でクリーンルームを稼働させているところは少ないようです。プラスチック成形の分野は大手が強く、我々中堅が戦

っていくには特化した武器がないと太刀打ちできません。ひとつは大手と違い小回りがききますので、小ロットでの製品受注、大量生産など、幅広いクライアントのニーズにフレキシブルに対応しています。もうひとつは、医療に関わる製品ですから品質管理や衛生管理の面で安心していただけるよう『クリーンルーム』を整備し、徹底的な衛生・品質管理に努めています」

「最近の業績ですが、製造業全般にまだ景況は厳しいと思われませんが、

「当社の場合、医療関係が中心ということもあって、景気に大きく左右されることはないようです。ただ、今後は海外との戦いがいつそう厳しくなるでしょうから、体力を強めるために特色ある企業でなければならぬと思っています。プラスチック成形の中でも射出成形やブロー成形（中空成形）の分野で、より技術力、開発力を進化させ、事業を展開していきたいと考えています」

* 空気中のゴミやホコリ、細菌などを除去した清浄な部屋